

なす



栽培歴

● は種

■ 定植

■ 収穫

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地		●				■						■

栽培ポイント

- (1)初夏から晩秋の長期期間収穫するので、土づくりを徹底し品質向上に努めます。
- (2)連作を行うと**半身萎ちょう病**等の土壤病害が発生するので、輪作栽培の対応策をとりましょう。

品種・播種

■ は種期

2月上旬～3月下旬

■ 品種

千両2号など

■ は種

条間－6～8cm、種子間隔－1cm

覆土は種子が見えない程度とします。その上より新聞紙を敷いてかん水をします。

ナス科植物で発生し、根からパーティシリウム菌が感染して起こる病害で、生育途中から萎れて枯れる。連作地に多く発生するので連作は避けた方がよい。土壤消毒を施すか、耐病性品種の選択や接ぎ木栽培で回避する。

育苗

■ 床土の準備

床土は保水性、通気性にすぐれ、肥よくでやや重いものを選びます。パイプハウス内で温床育苗をし、夜間は二重トンネルで保温します。

■ 移植

本葉1.5～2.0枚時に12cmのポリ鉢に移植します。

ほ場準備

■ 土づくり

定植1ヶ月前に堆肥、土壤改良材等を施し、深耕をしましょう。

■ 施肥

長期多収栽培のためには多肥が必要となるが、元肥に1度に多量施すと初期の生育が旺盛となり過繁茂になるため、全施用量の6割位程度に抑えます。また、追肥を省力する場合は、コーティング肥料を使用するとよいでしょう。

■ ベットづくり

ベットの高さは圃場条件を考慮し、高畦として排水をよくします。完成後は、マルチングして7～10日程度経過させ地温を高めます。

■ 苗の馴化

植付け前には温度を低くし、外気と同じ程度に下げ、ハウスビニールを完全に解放し、かん水も控えてならします。

定植

■ 定植時期

4月下旬～5月上旬

- 栽植密度

畦間－200～220cm

株間－60～80cm

- トンネル被覆

仮支柱直後に霜・低温・風対策として、**タフベル**等で被覆します。トンネルを使用しない場合は、圃場周囲に防風ネットを張ります。

吸湿性、保温性、透光性に優れ、野菜のベタガケ、トンネル苗の高保温性マット、園芸ハウスのカーテン、屋根がけなどに幅広い利用が可能。

定植後の管理

- 支柱立て

支柱を立てて、支柱の上部を連結し、フルコンテープ等を横張りし、枝を誘引できるようにします。

- 整枝

定植後1ヶ月位は放任し、主枝と第一時脇芽を利用する2本仕立てにし、2本の主枝から脇芽を利用する4本仕立てに移行します。

- 誘引

主枝と側枝をV字側面に下段～上段へ誘引します。フルコンテープを20～30cm間隔に張り、テープナー等で止めます。

- 追肥

収穫が始まったら2～3週間おきに追肥を行うようにします。1回の追肥は、N成分で3～4kg程度とします。

主な病害虫と防除対策

- うどんこ病

カビ病菌によって葉の表面に白い粉が発生し、白い粉で全面がおおわれてしまう病害。

気温28℃、湿度50～80%の高温乾燥条件下で発生しやすくなります。窒素肥料過多は発生を助長するので注意しましょう。

- 褐紋病

気温が28℃以上で降雨が多いときに発生しやすいので、梅雨あけ頃に注意します。ほ場内の排水を良好にし、密植をさけます。

- チャノホコリダニ

体長0.2mmと非常に小さく肉眼では確認できなく、芯部がワイ小・奇形化し淡黄色に変色します。

- ミナミキイロアザミウマ

葉表は主脈に沿い、褐・白色の小斑点を生じ、果実は萼部分から細く長い褐色の食害痕を生じます。

- マメハモグリバエ

幼虫が葉の内部を食い進み、くねくねとした線状の食害痕を残します。

収穫

収穫は朝夕の涼しいときに行いましょう。収穫や運搬時に果実に傷をつけると、褐色腐敗になるので注意しましょう。